



詩篇第一巻  
詩篇8-11篇

2012.6.14 詩巻集 神は天座と正者と悪者をさばく。

<p>10 def... 高ぶる者神はいい、 みまじと忘れない、</p> <p>11 天の王座とさばく 正者</p>	<p>8 天神の 人之地の王座に上れる。</p> <p>9 abc... 舞座とさばく 舞座とさばく 舞座とさばく 舞座とさばく 舞座とさばく 舞座とさばく 舞座とさばく 舞座とさばく</p>	<p>ABBA</p> <p>8. 2. 1.</p> <p>9. 4. 3. ) 正悪</p> <p>10. 6. 5. )</p> <p>11. 7. )</p>	<p>6. 5. 2. 1.</p> <p>祈りと謝り 正悪をさばく</p> <p>7. 4. 3.</p> <p>正悪をさばく 正悪をさばく</p>	<p>1:2: → 7: → 8: → 11:</p> <p>1:1 幸い正者 舞</p> <p>2:12 身を避ける、幸い正者 舞</p> <p>7:1 身を避ける、</p> <p>7:17 主の御名をほめたてらる</p> <p>8:1 主の御名</p> <p>8:9 主の御名、</p> <p>11:1 身を避ける</p>
<p>10 高ぶる口と謙ろ救い</p> <p>11 天の王座とさばく、</p>	<p>8 高ぶる口と謙ろ救い</p> <p>9 舞座とさばく</p>	<p>ABAB</p> <p>8. 2. 1.</p> <p>9. 4. 3. ) 怒り</p> <p>10. 6. 5. )</p> <p>11. 7. ) 善救</p>	<p>6. 5. 2. 1.</p> <p>怒りにおる救い 怒りにおる救い</p> <p>7. 4. 3.</p> <p>善におる救い 善におる救い</p>	<p>名、名 幸、幸</p> <p>8. 信、2. 1.</p> <p>9. 4. 3. )</p> <p>10. 6. 5. )</p> <p>11. 7. )</p> <p>信、名、信</p>
<p>10 不幸者の悪者</p> <p>11 正者と悪者</p>	<p>8 御名と(歌)歌う 歌名</p> <p>9 御名と(歌)歌う 歌名</p> <p>10 正悪</p> <p>11 正悪</p>	<p>AABB</p> <p>8. 2. 1. ) 祝福</p> <p>9. 4. 3. )</p> <p>10. 6. 5. ) 善救</p> <p>11. 7. )</p>	<p>6. 5. 2. 1.</p> <p>善人の守りと救い 正者の祝福と救い</p> <p>7. 4. 3.</p> <p>善人の救いと守り 善人の救いと祝福</p>	<p>*1,2と10,11の似せ、 正者悪者、風、身を避ける、天の座</p>

第1巻の第1集。1篇から11編まで。1篇から7篇までの前半は別のビデオでまとめています。8篇から11篇まで、この4つのものを分析しました。

1巻を8個の段落に分けたときに、ABBA,ABBAとABAB,ABABという組合せ、それとAABBという組合せ。この3つの組合せの並行を見ないといけないでしょうということで見ました。

9と10。これは、abcアルファベットの詩篇で、普通はabcで始まって、これも(9篇)abcで始まるのですけれど、続けてdefで始まる(10篇)みたいな感じで、abcがつながっています。これは一つの詩篇だというふうにヘブル語の詩篇だと9篇とまとまるくらいペアだということが言えると思います。

8と9,10に分けるのは、この分析を通して正しいということがわかると思います。8と11のつながり、9と10の並行、8と10の並行、9と11の似ているところ、8,9の似ているところ、10,11の似ているところというようにして比べて題をつけていくということですが、元々の詩篇の並び方と形を見ると、ABBAというつながりが一番強調されているものだと思います。

2012.6.14 詩巻集 神は天座と正者と悪者をさばく。

10. def... 高ぶる者 神はいない みまじと忘れぬ	B. 天座 人と地の王座につける	ABBA 8.	2. 1.	6. 5.	2. 1.	1: 2: → 7: → 8: → 11:
11. 天の王座をさばく	9. abd... 義座をさばく 悪者をさばく 救い出す	天座 ( 9. 4. 3. ) 10. 6. 5. ) 正悪 11. 忘 呼答 7.		祈りと同じ ?	正悪をさばく 4. 3. 正悪をさばく Dがど答える	1: 1 幸いなる 満 2: 12 身を避ける 幸いなる 満 7: 1 身を避ける 7: 17 主の御座に御座る 8: 1 主の御座

8は、天の神様が人、人の子を地の王座に据える。11のほうは、天の王座で正しい者と悪者をさばきます。天の御座からさばきが来るとのこと。

ここ(9)も義の座でさばくわけですね。座について神様は敵をさばくのですが、こちら(10)は、高ぶる者は「神はいない」と言って、高ぶる者は「自分がさばき主だ、私が王である」ということを主張する。(9)しかし貧しい者を忘れずあなたが救い出す、(10)みなしごを絶対に忘れないという神様の天の王座でさばいているのですが、そのさばきは実に憐れみ深いものだということがこの二つの組で分かれて天の王座と忘れないというふうを書いてあります。

10. 高ぶる者と御手救い	B 幼子の口と御手のわざ	ABAB 8.	2. 1.	6. 5.	2. 1.	8: 9 主の御座.
11. 天の王座をさばく	9. 義座をさばく	天座 ( 9. 4. 3. ) 10. 6. 5. ) 怒滅 11. 御手 7. 義救		怒りによる救い ?	怒りによる救い 4. 3. 義による救い 義による救い	11: 1 身を避ける 名×名 幸×幸 8. 信 2. 1 9. 4. 3. )

8と10は御手のわざ、御手の救いです。こちら(8)は幼子の口、こちらは(10)高ぶる者の口が並行しています。(9)義の座に就いてさばく、(11)天の王座でさばくという御手の話と義のさばき。

10. 不幸な者 御名を誉め歌う	B 御名を誉め歌う	AABB 8.)	2. 1.) 4. 3.)	6. 5. 義人の御手救い	2. 1. 正者の祝福と救い	9. 4. 3. ) 10. 6. 5. ) 11. 信 名. 信
11. 正者 vs 悪者 御名を誉め歌う	9. 御名を誉め歌う	正悪 10.) 11.)	6. 5.) 7.)	義人の救いと御手	義者の救いと祝福	* 1. 2 と 11a, 11b aはbに. 正悪 義 義 身を避ける 天座

8と9は何か似ているかなと思うのですが、8と9も似ています。御名を誉め歌う、御名を誉め歌うということが8と9の大切な並行です。ハレル(歌)・ヤ(名)ですね。誉め歌を歌います、主の名。

10と11は不幸な者と悪者、正しい者と悪者、そのさばきが行われるというように全体を一致しているものとしています。

1から7までのところを見ると、正しい者と悪者、呼ぶと答える、神様は怒って滅ぼす、義によって救ってくださる、祝福を与える神様、義人の救いである神様というような短くまとめてみるとわかります。「正しい者と悪者のさばき」に対して「正しい者と悪者のさばき」があるねというところをもう一度思い出してくださいね。

